

2-4 東北地方の地殻変動

Crustal Movements in the Tohoku District

国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図は、男鹿、深浦及び鼠ヶ関各験潮場間の月平均潮位差である。1979年頃から男鹿と深浦が隆起し、1983年日本海中部地震が発生した。男鹿は、それ以降変動はみられないが、深浦は1987年ころより徐々に沈降している。

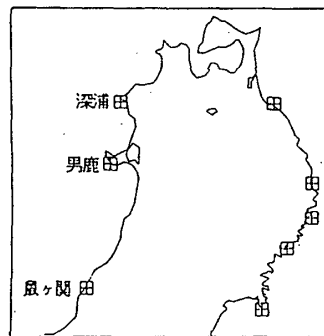
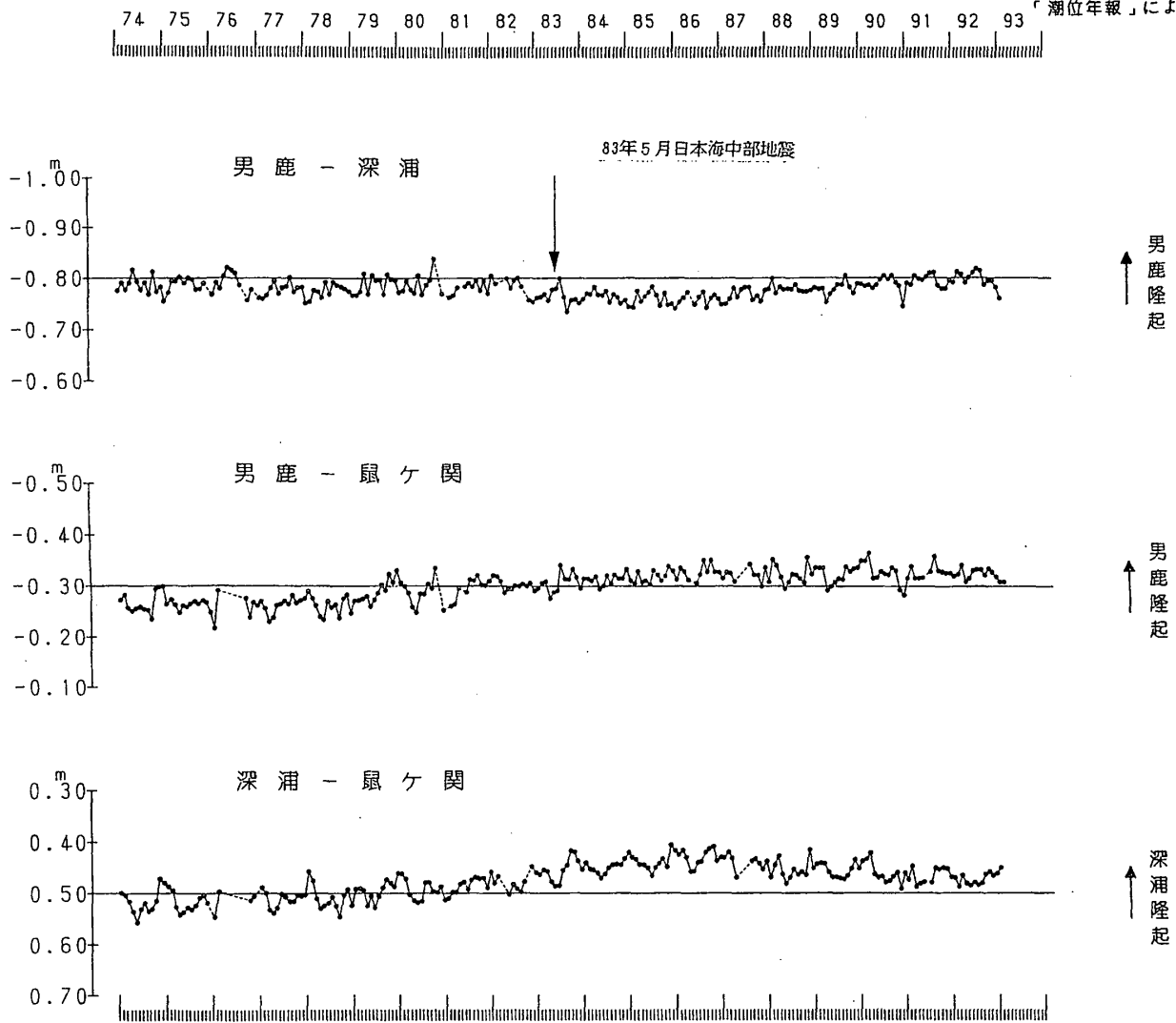
第2図は、八戸、宮古、釜石及び大船渡各験潮場間の月平均潮位差である。1970年代後半に釜石が大きく沈降していたが、その後変化は見られない。

第3図は、鮎川、大船渡、相馬及び小名浜各験潮場間の月平均潮位差である。小名浜の大きな隆起は、常磐炭田の閉山による影響である。

第4、5図は、これまで公表した東北地方の精密測地網測量一次基準点測量の2回目の測量結果をまとめたものである。第4図は、一次網1回目との比較による最近約10年間の水平歪である。太平洋岸は歪は小さく、特定の傾向はみられない。一方、日本海側男鹿半島から弘前周辺には、1983年日本海中部地震による東西ないしは北西-南東方向の伸び歪が卓越している。第5図は、明治の三角測量との比較による約80年の水平歪である。この結果には、1939年の男鹿半島地震、1940年の秋田仙北地震、1974年の鳥海山の噴火及び1983年の日本海中部地震等の影響が重なっているが、全体として、北東-南西から北北東-南南西方向の伸びが卓越している。

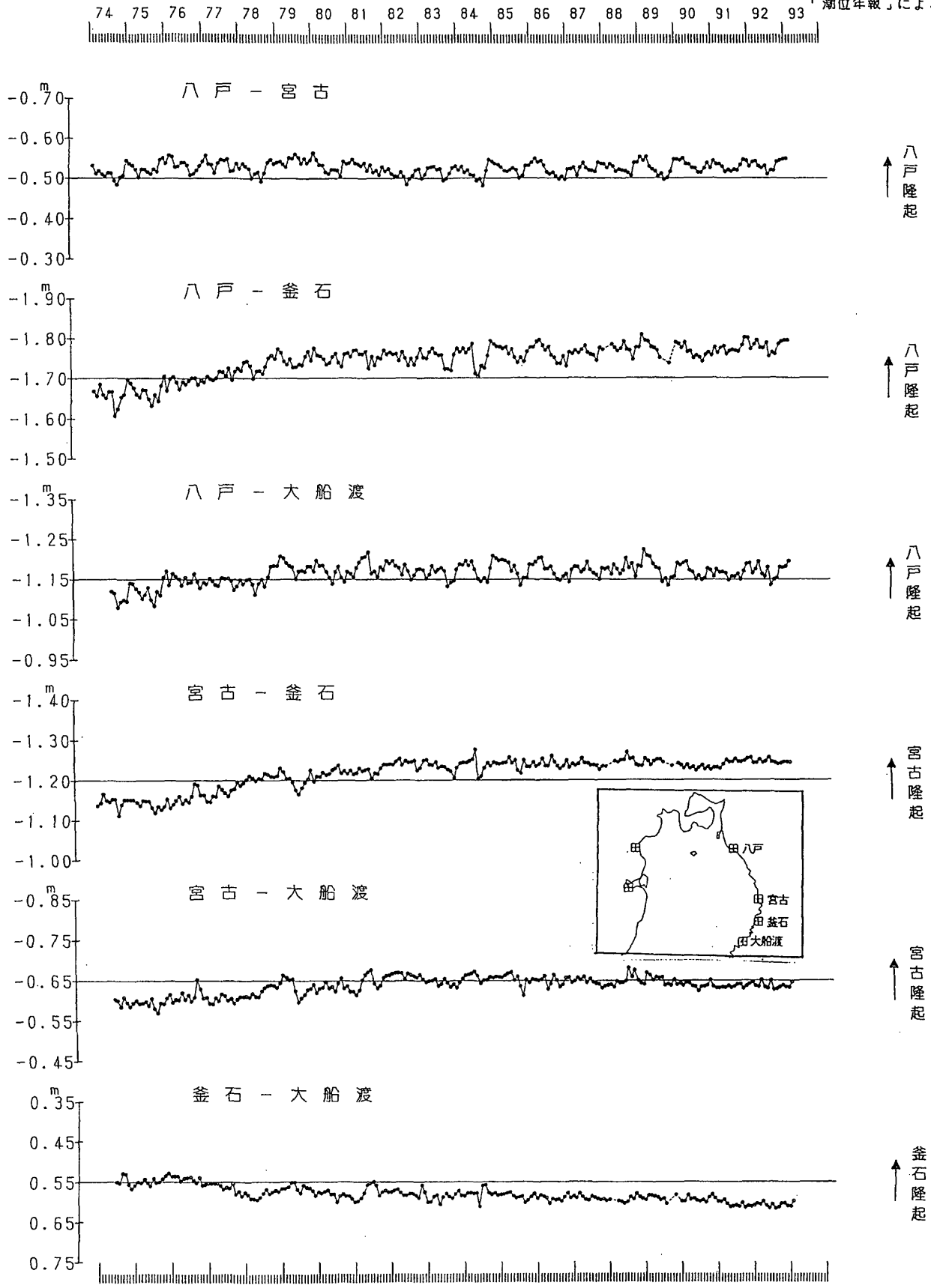
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：東北地方の地殻変動，連絡会報，**38** (1987)，81-103.
- 2) 国土地理院：東北地方の上下変動，連絡会報，**39** (1988)，71-75.
- 3) 国土地理院：東北地方の地殻水平変動，連絡会報，**42** (1989)，43-52.
- 4) 国土地理院：東北地方の水平歪，連絡会報，**44** (1990)，68-71.
- 5) 国土地理院：東北地方の水平歪，連絡会報，**46** (1991)，35-38.
- 6) 国土地理院：東北地方の地殻変動，連絡会報，**48** (1992)，68-72.
- 7) 国土地理院：東北地方の地殻変動，連絡会報，**49** (1993)，67-76.



第1図 男鹿、深浦及び鼠ヶ関各験潮場間の月平均潮位差

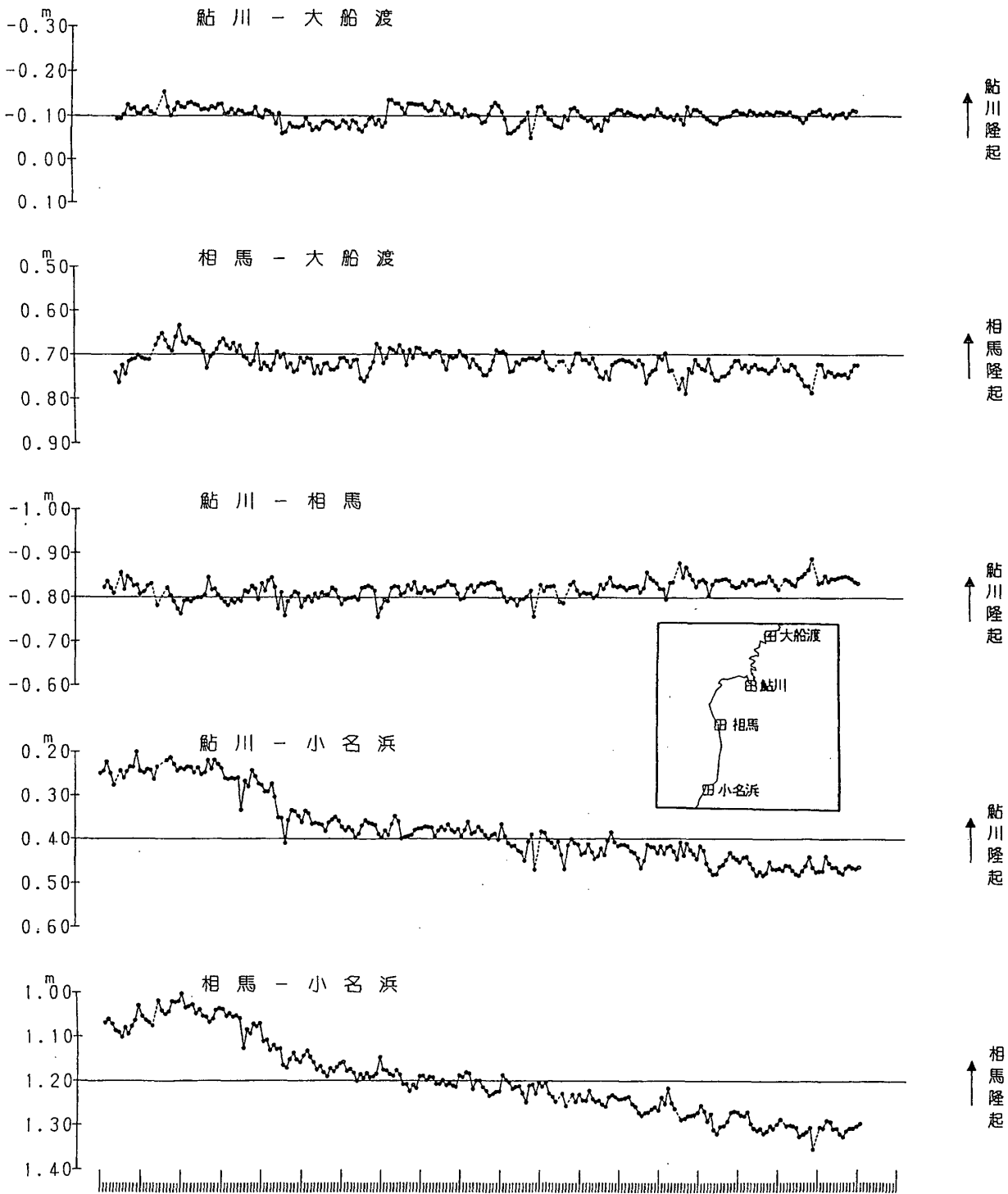
Fig.1 Differences in monthly sea level changes between the Oga, Hukaura and Nezugaseki tide Stations.



第2図 八戸，宮古，釜石及び大船渡各験潮場間の月平均潮位差

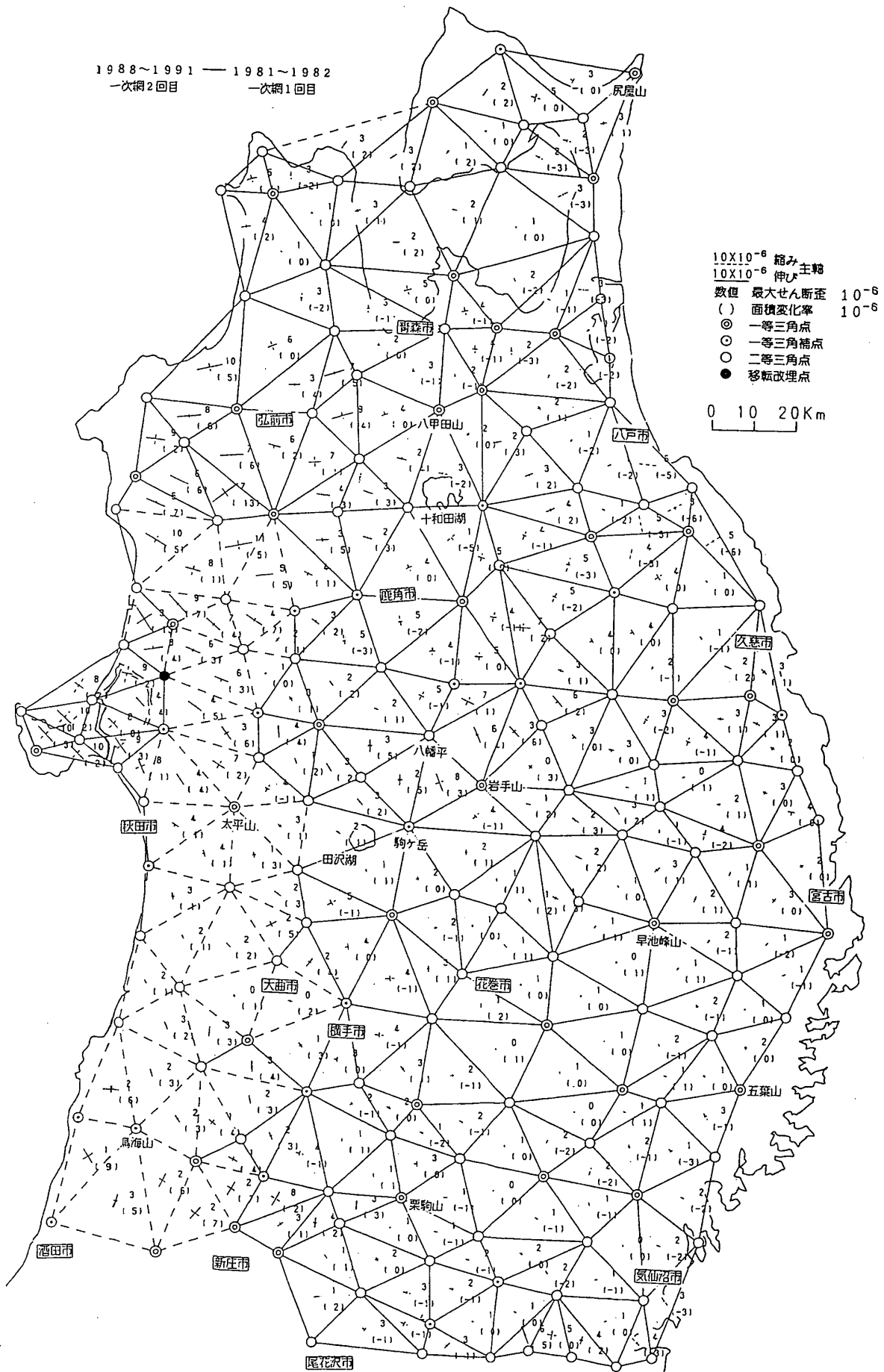
Fig.2 Differences in monthly sea level changes between the Hachinohe, Miyako, Kamaishi and Ohunato tide stations.

74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93



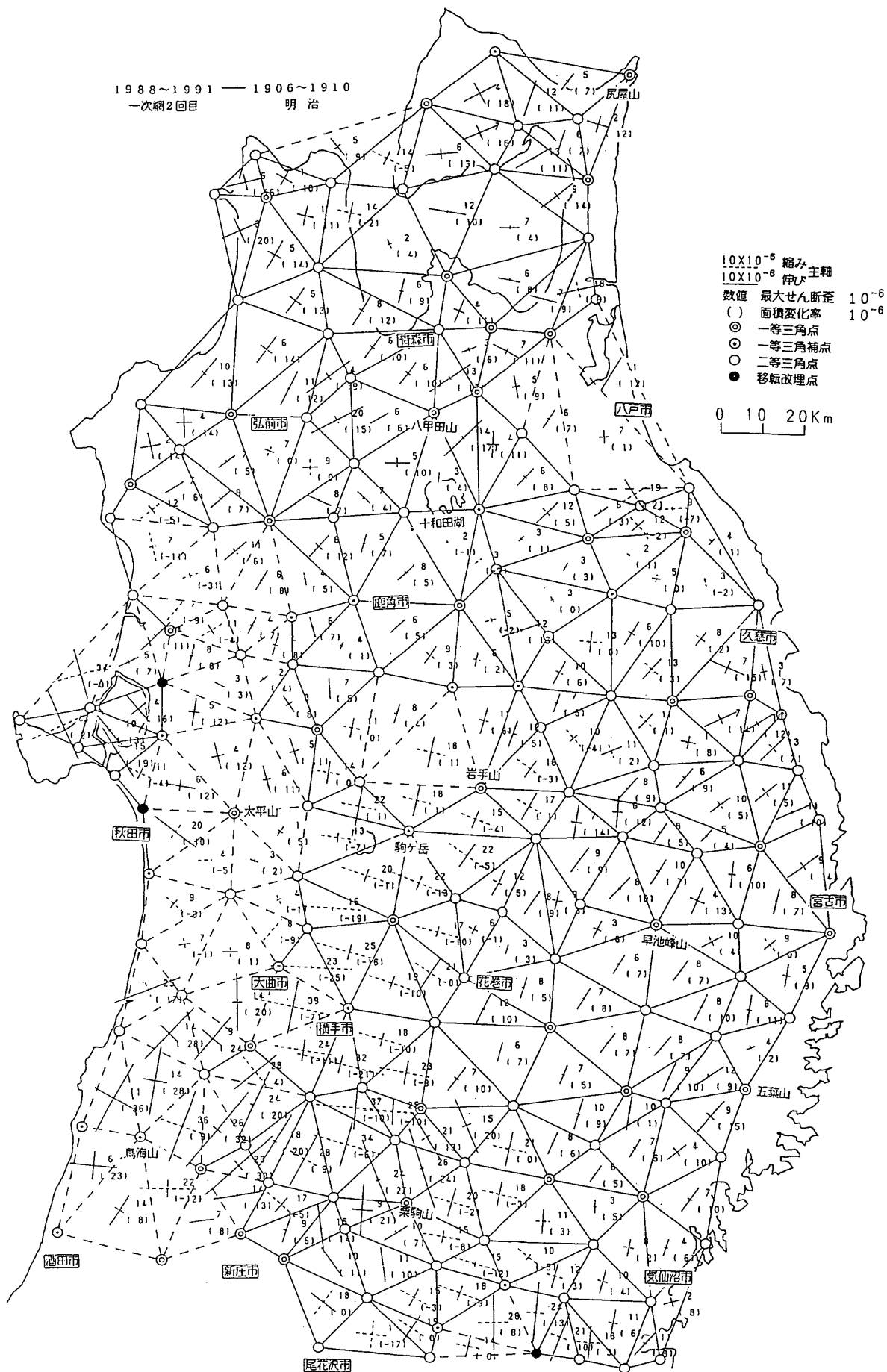
第3図 鮎川，相馬，大船渡及び小名浜各験潮場間の月平均潮位差

Fig.3 Differences in monthly sea level changes between the Ayukawa, Soma, Ohunato and Onahama tide stations.



第4図 東北地方北部の水平歪 (1988~1991-1981~1982)

Fig.4 Horizontal strains in the northern Tohoku district (1988~1991 - 1981~1982).



第5図 東北地方北部の水平歪（1988～1991－1906～1910）

Fig.5 Horizontal strains in the northern Tohoku district (1988 ~ 1991 - 1906 ~ 1910).